

令和3年度茨城県男女共同参画審議会

1 日時

令和3年9月9日（木）10時00分～12時00分

2 開催方法

オンライン（Webex meetings）

3 出席委員（敬称略、五十音順）

秋山 謙（(株)常陽銀行 人事部長）
阿部 重典（(株)茨城放送 代表取締役社長）
安藤 隆子（茨城県女性団体連盟会長）
飯田 昭子（連合茨城女性委員会副委員長）
内田 和子（茨城県学校長会副会長）
長田 佳世（茨城県産婦人科医会理事）
清山 玲（茨城大学人文社会科学部教授）
関 英之（茨城労働局雇用環境・均等室長）
中村 香代（(株)わかさキャリアコンシェルジュ代表取締役）
仲山 郁夫（NPO法人ウイメンズネット「らいず」会員）
山形 芙美（日立商工会議所女性起業家交流グループみゅーず net 会長）
横田 祥（(有)横田農場 米粉スイーツ加工部長）
（計12名）

4 内容

（1）開会

（2）あいさつ

（3）委員等紹介

（4）議事

- ①茨城県男女共同参画基本計画（第3次）の概要及び実績について
- ②茨城県男女共同参画基本計画（第4次）の概要及び推進について
- ③ダイバーシティ推進センターの取り組み等について

（5）報告事項

- ①茨城県女性活躍推進計画（第2次）に関する取組について
- ②茨城県職員子育て応援・女性活躍推進プランについて

（6）閉会

<配布資料>

- 資料1 茨城県男女共同参画基本計画（第3次）の概要及び実績について
資料2 茨城県男女共同参画基本計画（第4次）の概要及び推進について
資料3 ダイバーシティ推進センターの取り組み等について
参考資料1 茨城県男女共同参画基本計画（第3次）の関連施策一覧
参考資料2 茨城県男女共同参画基本計画（第4次）の関連施策一覧
参考資料3 茨城県男女共同参画基本計画（第4次）ダイジェスト版
報告資料1 茨城県女性活躍推進計画（第2次）に関する取組について
報告資料2 茨城県職員子育て応援・女性活躍推進プランについて

5 結果

- ・開会にあたり、茨城県県民生活環境部 松崎次長が挨拶を行った。
- ・議事について、事務局から説明を行った後、議論が行われた。主な意見は下記のとおり。

<主な意見> ※記載は発言順

- ・待機児童数がゼロとなることはもちろん、今後は、誰もが希望する時期に、希望する保育所に入所できるようにしてほしい。
- ・管理職の女性比率について、自治体間でも差がある。トップ層への啓発等進めてほしい。
- ・地域包括支援センター（サブセンター・ランチ含む）の役割が届いていない地域は、基本的にはないと思う。男女共同参画の充実という観点においては、センターが、より暮らしやすい地域づくりに関してどのような役割を果たすかということが大事。
- ・男性の育児休業取得については、産後8週以内に2週間の育児休業取得を義務付ける法律改正が行われた。周知啓発を図って、男性の育休取得を促進していきたい。
- ・女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画の策定が、来年4月から101人以上の企業についても義務付けされる。すべての企業が、行動計画を策定し、女性が活躍できるような環境を整えていきたい。
- ・コロナ禍で、在宅時間が長くなった結果、女性の育児時間の増加率が、男性の増加率よりも高くなるなど、性差の偏りが出ている状況がある。何かあった時にも、女性が働き続けられるような対策も踏まえて、考えていく必要がある。
- ・外国籍の方も、安全・安心に住める体制を作ることも、男女共同参画やダイバーシティの観点では必要ではないか。
- ・女性の登用については、まずはポジティブアクションによって、積極的な登用を進めることが重要。
- ・ダイバーシティ宣言について、宣言するだけでなく、その宣言通りに取り組みを進めているか、チェックする必要があるのではないか。
- ・ダイバーシティ推進センターで実施している相談事業について、ダイバーシティを広めながら相談を受ける、アウトリーチ型はどうか。言葉を広めるだけでなく、県民にダイバーシティを身近に感じてもらうことが重要。
- ・子供向けに、家庭内の家事内容の書き出し・誰がやっているかチェックするシートを、ダイバーシティ推進センターが作成した。県内の小学校で活用してもらい、保護者と子供がともに啓発されるようにすればよいと思う。
- ・県職員子育て応援・女性活躍推進プランで定めた、県庁における管理職女性割合の向上と、男性の育児休業取得の促進は、大変意欲的な目標であり、成果を期待している。
- ・コロナに関する対応や影響について、マイナスにとらえるだけでなく、例えば在宅時間が増えたことをうまく活用できるようなイベント等開催の仕方やアイデアが重要。
- ・小・中学校の頃から、様々な意識改革、人権感覚を磨いていくことの必要性と重要性を、改めて感じた。
- ・農山漁村における男女共同参画を測る指標について、家族経営協定に代わる指標、例えば、女性農業者のグループ数や、農業法人の女性社員数など、新たな指標を模索してはどうか。
- ・農業の分野こそ、男女共同参画が非常に遅れていると感じる。JA以外でも広く活動している団体等もあるので、そういった団体や農業法人にも、ダイバーシティ宣言などの声掛けをしてほしい。